

セーフコミュニティ かめおか

けがや事故を予防しよう



Vol.28 平成 29 年 12 月号

セーフコミュニティとは

セーフコミュニティ(SC)とは、WHO(世界保健機関)が推奨する「けがや事故などは偶然の結果ではなく、予防することができる」という理念に基づいて、体系だった方法によって、地域社会全体が協働で安全安心に取り組んでいるコミュニティのことで、亀岡市は国内で初めてSCの認証を取得しました。

亀岡市では、市内で発生しているけがや事故の現状及び課題などから、自殺、高齢者の安全対策、交通安全対策、防犯、スポーツの安全対策、乳幼児の安全対策の6つの対策委員会を設置し、市民の皆さんとともに安全・安心なまちづくりを進めています。

セーフコミュニティの再々認証に向けた事前審査を実施しました

11月27日(月)～11月29日(水)

平成30年にセーフコミュニティ再々認証を目指す亀岡市は、台湾からパイ・ル審査員、韓国からチョ・ジュンピル審査員を招き事前審査を実施しました。

審査初日は亀岡消防署や篠町に設置されている安全安心モニュメントを視察した後に、桂川市長が亀岡市の安全安心に関する概要説明を行いました。



審査会場の様子



概要説明



京都学園大学の体操教室を視察



亀岡消防署の活動を視察

セーフコミュニティ事前審査における各対策委員会の発表

SC 事前審査の2日目以降は、亀岡市 SC の評価組織であるサーベイランス委員会をはじめ、6つの対策委員会の委員が活動状況やその成果について発表を行いました。



サーベイランス委員会

スポーツの安全対策委員会



自殺対策委員会

防犯対策委員会



高齢者の安全対策委員会

乳幼児の安全対策委員会

交通安全対策委員会

審査員の講評



審査員からは、SC の取り組みを単に継続しているだけでなく、安全向上に向けて不断の努力をしている点について評価をいただきました。

また、取り組みの改善に向けた様々なアドバイスもいただきましたので、更なる安全・安心なまちづくりに向けて、市民の皆様と一緒に今後もセーフコミュニティ活動を展開していきます。

インターナショナルセーフスクール

安全で安心な学校・保育所・保育園づくり

セーフスクールとは

体と心のけがやその原因となる事故、いじめ、暴力を予防することによって、安全・安心な学校や保育所づくりを進める活動がインターナショナル・セーフスクール(ISS)です。

亀岡市立曾我部小学校、社会福祉法人^{ほうじょうかい}倣襲会亀岡あゆみ保育園、亀岡市立保育所8カ所(本梅、東本梅、川東、中部、東部、第六、別院、保津)がISS認証を取得し、現在も取り組みを進めています。

安全・安心な暮らしに必要な体力を身に付けよう！

曾我部小学校のISS子ども講演会

11月1日、曾我部小学校でセーフスクールを学ぶ子どもたち自身の安全力を育てることを目的として、ISS子ども講演会を開催しました。

当日は京都学園大学健康スポーツ学科の先生に、安全・安心な暮らしには必要な体力向上が必要であることを学び、実際に体力測定や元気アップエクササイズを体験しました。

参加した5・6年生は、京都学園大学学生と交流し、楽しみながら体力向上が病気やケガの予防につながることを学びました。



地域と一緒に避難訓練

本梅保育所の避難訓練

11月1日、本梅保育所で避難訓練が実施されました。

本梅町自治会の中村会長から園児たちに向けて災害時の安全な行動についてお話をいただいたほか、初めての試みとして、隣接している本梅小学校と連携して実施されました。

今後はさらに連携を深め、小学生と園児と一緒に避難する訓練に発展する予定です。



セーフスクールの再認証に向けた事前審査を実施しました

11月30日(木)～12月1日(金)

ISSに取り組む亀岡市立曾我部小学校、社会福祉法人倣襲会亀岡あゆみ保育園、亀岡市立保育所8カ所(本梅、東本梅、川東、中部、東部、第六、別院、保津)が、11月30日から12月1日まで、再認証事前審査を受けました。現在のISSの取り組みの方向性を確認するため、台湾からISS国際認証審査員であるパイ・ル先生に来ていただき、取り組み報告を行いました。



曾我部小学校の
ISSいじめ防止フォーラム



亀岡あゆみ保育園の
安全クイズ



東本梅保育所での
自治会長の発表



本梅保育所の
ISS活動報告の様子



川東保育所の
地域と連携した環境改善



第六保育所の
遊具の安全対策

来年の再認証を目指して

ISS国際審査員による講評

最終日である12月1日に、亀岡市役所市民ホールでパイ・ル先生から講評をしていただきました。

前回認証時から子どもや保護者が変わっていく環境の中での取り組みの継続や、ISSの指標を理解し取り組みに繋げていることについて、高く評価していただきました。

また改善点として、課題に対する取組を実施するためには、危険要因を把握するためのしっかりとした分析が必要であるとの指導を受けました。

